

## 豊かな自然、スナメリの里



開発が進んだ瀬戸内海で、自然の海岸が残っている地域は、約2割。そんな中、上関町には実に7割以上、自然の海岸が残っています。瀬戸内海のほかの海域ではほとんど目撃されなくなった野生の小型鯨「スナメリ」は、田ノ浦をはじめとした長島・祝島周辺の海域で、今でも頻繁に目撃されています。4～6月には子連れの姿も目撃されることから、スナメリにとってこの海域は出産・子育ての重要な場所であることが指摘されています。

瀬戸内の生態系の頂点に立つスナメリが、数多く生息するというのが、この海域の豊かさを象徴しているといえるでしょう。

### 保護動物指定 スナメリ

当初、電力会社は国への報告の中でスナメリの存在を伏せていたが、自然保護団体に指摘されて明るみにになった。



天然記念物  
カラムリウミスズメ

ペンギンにも似た愛らしい姿で海面に浮かぶ、カラムリウミスズメ。祝島や、長島近くの海での生息が「長島の自然を守る会」によって、2008年に正式に確認された。国や県、中国電力は、この世界的にも希少な貴重な種についての十分な調査を行わずに、海を埋め立てるなどの原発建設作業を始めようとしている。

## 祝島特産品の紹介 経済的自立と地域活性化

上関町では、原発への賛否による対立で、これまでお互いがお互いを支えあってきた地域の共同体の在り方が根底から破壊され、原発関係から来るお金に頼ることで、自立する強さも失われようとしています。

しかし祝島では、原発のお金に頼らず自分自身の足で立ち、歩いていくために、無農薬栽培のびわの葉をお茶にした「びわ茶」や海産物の加工品などの特産物を、島の女性たちが中心となって開発・販売しています。また、何でも行政に頼るのではなく、島で生きていくために自分たちでできることは自分たちでやっていくとうとずする取り組みも始めています。

島外のみならず協力を、ぜひお願いいたします。



- 01 たくさん大きく育ったびわ
- 02 無農薬のびわの葉でお茶を作る島の女性グループ
- 03 周辺の海域は天然真鯛の絶好の好漁場 04 名産ひじきの天日干し風魯
- 05 鉄の釜で薪でじっくり炊いていくから、祝島のひじきは柔らかくて風味が抜群!
- 06 大人気の干しタコ(干しイカ) 07 タコヤイカなどの漬物は、島の山桜の木で醸します
- 08 特産品の干し大根も手作りで作られています
- 09 使われていない島の朝田を、祝島放牧隊で開墾・復活させ、循環型農業を行っています

祝島特産品のご注文・お問い合わせはこちら!

**祝島市場ホームページ**  
<http://www.5d.biglobe.ne.jp/~jfi-ivai/>  
 電話 FAX 0820-66-2538

“魚干大根”のメンテナンスがおすすめです!  
その日の新鮮さを保ち、お魚ごま油(塩コショウ(体しほりに効く))、お酢(お酢は、ほろ苦みになるお魚さんを守る為) ※お魚がいたずらは甘くてとってもおいしいので、魚油や味噌汁のタシなどとしても)

上関原発を建てさせない祝島島民の会

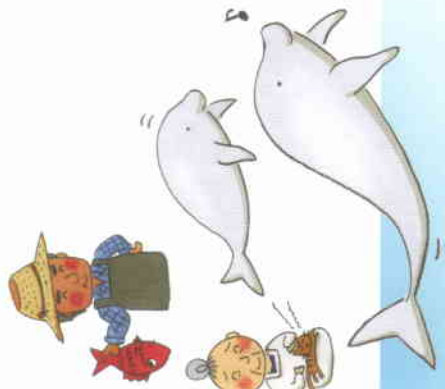
FAX 0820-66-2110  
 E-mail iwaiishima@gmail.com  
 祝島島民の会 ホームページ  
<http://shimabito.net>

カンパ、ご支援に  
 ご協力をお願いいたします  
 郵便番号 01390-4-67782  
このパンフレットの掲載には、風力発電による電力が使用されています。

# 祝島

SAVE THE IWAISHIMA  
 STOP Kaminsseki Nuclear Power Plant  
 上関原発問題を知るために

自然とともに 自立して 生きる







## 祝島の歴史、文化

### 万葉集にも歌われた海上交通の拠点

海上交通の要所として万葉集にも歌われた祝島の集落は、味わい深い「石積みのお練り堀」が点在し、その美しさを一目見ようとする人が絶えません。また、大分県国東半島の伊美別宮社から、神主や里楽師らを招き、海を渡る「祝島神舞(かんまい)神事」は、1000年以上の歴史を持つ由緒ある祭。4年ごとに行われる祭の期間中は、島の人口の半数もの人が訪れます。

島民は一本釣りやびわの無農薬栽培など、主に農業で生計を立てています。1960年代ごろは、一本釣りのタイが漁獲高のトップで、「祝島鯛」は本土の高級料理店にその名が知られるほど。現在はアジ、タイ、タコ、サヨリ、カレイ、ヒラメなど、四季折々の豊富な海の幸に恵まれています。また、農産物で最も評価を受けているものが、糖度が高いと評判のびわ。これは祝島の風土が、びわの生育に特に適しているためで、農産に頼らず上質のびわを生産することができる貴重な地域となっています。



祝島集落から田ノ浦を眺める風景  
祝島と原発建設予定地を  
さえぎるものは何も無い。



石積みの練り堀  
石と泥と漆喰でできたこの堀は、  
埋してもまた自然に運る素材でできている。  
祝島ではこの練り堀の修復事業等を  
島民自身の手で行うなど、自分たちの  
文化を守る行動が行われている。



「神舞」耀伝馬(かいでんま)  
伝統の祭りも原発問題の対立によって一時は絶えたが、  
島の誇りを守るために島民自身の手によって再開された。

## 祝島をはじめとした上関原発反対運動

### この豊かな海と山が、あってこそ

上関原発計画は、調査等が進められながらも建設計画自体は何度も延期され、上関町内では選挙のたびに3割から4割の住民が原発に反対する候補に票を投じてきています。特に予定地を目前に見る祝島では島民の約9割が原発建設に反対し、毎週月曜に行われる島内デモは2008年6月に通算1000回を超え、現在も続けられています。また島の漁業者は総額で10億円に及ぶ漁業補償金の受け取りも拒否し続けています。

土地の権利や海の埋め立てに関する裁判は現在も続けられています。島民が、住民の思いを無視して電力会社や国は埋め立てや原発建設を強行しようとしています。



私らはね、この海や山のおかげで今まで生きてこれたんよ。じゃけんね、この海や山を子供や孫たちに残したいんよ。私らの代で勝手にお金を金に変えちゃあけんものなんよ。



## 「おいしくてうつくしい島」

～大塚在住のKakumiさん(仲間と祝島茶室を主催)より～  
ますます、行きたくなくなるとも素直な島です。同っ  
た2月の祝島では、特産のびじまの解禁日に当た  
り、採れたての、乾燥前のびじまをいただきました。  
熱湯に入ると鮮やかな緑になり、めちゃうくややわ  
らかく、いままでのびじまのイメージとは全く違っ  
てもおいしかったです。レモンをかけただけで、自然  
の塩味と酸の香が染み出ました。他におすすめは、無農薬と天日干しの手作り寒干し  
大根。そしてもうすぐ、びわの季節になるそうです。祝島のびわを食べたら、他のは食  
べれなくなる言われるほどの美味だと思います。(すみません、おいしい話はかりで^^)  
冬でも本陽いっぱいの日々から、煙草が今更には見えています。山梨の咲き誇る春、  
縁がまぶしい棚田など、おそろしく山奥にでも、来たような感じがした。  
夜は、満点の星空で、どこか山奥にでも、来たような感じがした。  
直接この目で見てきた感想は、どうしてこんなに素晴らしい場所をまったく関係ない人  
たちがうばって行くのだらうということでした。そんな権利は、誰にもないはずなのに。  
こんな理不尽なことってあるのかしら、作るのだから、作れば電気を売って儲かるに作る  
べきではないのかと、思いました。



祝島から見た、田ノ浦  
上関原発で作られる  
電気のほとんどは、  
地元ではなく関西方面の  
都市部で消費される。



## 上関原発計画

### 住民の対立、地域活力の減衰

山口県の南東部、瀬戸内海に面した上関町は、古来より海上交通の要所として栄えてきました。その上関町に1982年、中国電力による137万kw級の原子力発電所の建設計画が持ち上がり、以来、町は原発推進派と反対派に二分され、25年以上が過ぎた現在も原発は着工にすら至らず、地域住民の対立も続いています。その間、上関町は原発財源による町づくりを目指すも過疎化に歯止めがつかず、人口も2007年には4000人を切るなど減少の一途を辿っています。

出力	方式	改定済機	改定済機	改定済機
137万3千kw	改良沸騰水型	2010年度	2015年度	2020年度

出	功	上関原発1号機	上関原発2号機
137万3千kw	137万3千kw	2010年度	2015年度

※機上予定出当初の計画から8度も延期されている。  
※当初1号機は2009年に着工予定だった。

その上関町内でも原発計画に最も強く反対しているのが、予定地「田ノ浦」を正面に見る離島「祝島」に住む島民です。



山口県  
山口市  
福岡県  
大分県  
山口県  
愛媛県  
長島  
祝島  
上関町  
発電所計画地点 田ノ浦